

サービス業：売上額は前期比+58.3 ㊦、収益も前期比+58.3 ㊦と大きく上昇。

しかし、料金価格や材料価格についても上昇した。

人手については前期比△13.9 ㊦と不足傾向強まる。業況D I は前期比+36.1 ㊦と大きく改善するも、見通しは慎重で来期業況は今期比△11.1 ㊦と悪化を予想。

建設業：売上額は前期比+33.3 ㊦と増加傾向だが、材料価格が前期比+22.9 ㊦と上昇し、収益は前期比+10.4 ㊦と弱い。収益や資金繰りが未だに厳しいためか業況についても前期比+4.2 ㊦と横ばい。人手は前期比△16.7 と更に不足拡大。

不動産業：売上額は前期比+6.5 ㊦、収益は前期比+3.2 ㊦とやや増加傾向。

人手は前期比△9.7 と不足化傾向にある。業況は前期比+3.2 ㊦とやや改善。

地域別天気図 <信金中央金庫「中小企業景況レポート 2021.10~12月期」を転用>

【地域別天気図（今期分）】

地域 業種名	北海道	東北	関東	首都圏	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州北部	南九州
総合											
製造業											
卸売業											
小売業											
サービス業											
建設業											
不動産業											

（この天気図は、過去1年の景気指標を総合的に判断して作成したものです。）

好調 ← → 低調

特別調査：「2022年（令和4年）の経営見通し」

Q 1：貴社では、2022年の日本の景気をどのように見通していますか。

回答：・やや悪い（46.1%）・普通（22.8%）・悪い（19.6%）・やや良い（7.9%）
・良い（1.7%）・非常に悪い（1.6%）・非常に良い（0.0%）

Q 2：貴社では、2022年の自社の業況（景気）をどのように見通していますか。

回答：・普通（48.8%）・やや悪い（28.0%）・やや良い（10.4%）・悪い（8.3%）
・良い（2.2%）・非常に悪い（1.5%）・非常に良い（0.5%）

Q 3：2022年において貴社の売上額の伸び率は、2021年に比べておおよそどのくらいになると見通していますか。

回答：・変わらない（45.6%）・10%未満の増加（13.0%）・10~19%の増加（12.3%）
・10%未満の減少（10.9%）・10~19%の減少（8.0%）・30%以上の減少（3.5%）
・20~29%の増加（2.5%）・20~29%の減少（2.3%）・30%以上の増加（1.7%）

Q 4：貴社では、自社の業況が上向き転換点をいつ頃になると見通していますか。

回答：・1年後（26.3%）・業況改善の見通しは立たない（17.3%）・2年後（15.7%）
・すでに上向いている（15.2%）・3年後（9.3%）・3年超（8.3%）
・6か月以内（7.2%）

Q 5：様々な分野で原材料・仕入価格の上昇が経営上の問題となっていますが、貴社ではどのような対応を取っていますか。

回答：・販売価格に転嫁できている。または仕入価格は上がっていない（15.2%）

※価格転嫁できていない場合は、仕入（調達）価格上昇への対応を、最大3つまで回答

・経費の削減（43.3%）・特に対応はしていない（21.6%）・製品・商品・サービスの見直し（12.4%）・仕入先・仕入方法の変更（10.8%）・生産性の向上（システム投資など）（9.9%）・仕入の削減（生産・販売量の調整）（6.7%）・代替品の確保（5.5%）・その他（0.9%）・仕入の中止（0.5%）

（「ひびしん 中小企業景気動向調査結果」より、抜粋しました。）